

1 大迫力にびっくり

西野地区は自衛隊に対する協力活動が活発な地域であり、地区自衛隊協力会（佐藤功悦会長）の会員は約120名と市内に70ある同団体の中で、4番目の規模を誇っている。

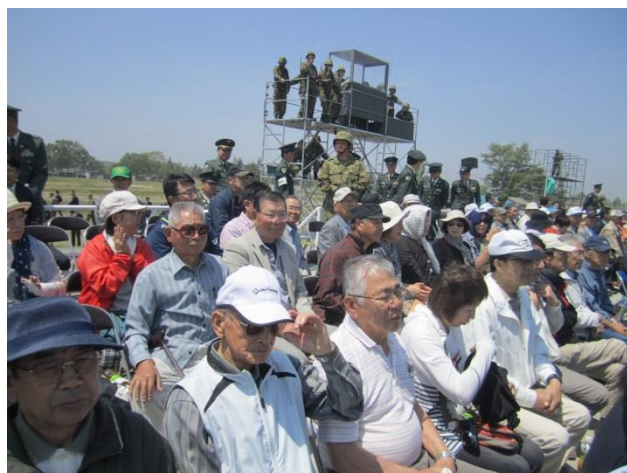
例年、協力会では会員を募って近郊の自衛隊施設の見学会を実施しているが、今年は、5月29日（金）に陸上自衛隊東千歳駐屯地において行われた第7師団創隊60周年記念行事の総合予行を見学した。

当日は、本州からの来訪者も含めた約500人の見学者うち、当地区の会員が60人と全体の割強を占めることに。

記念行事の本番は5月31日（日）に行われて一般公開されているが、約1万6千人の人が訪れるため、今回のように間近でゆったり見ることは出来ない。

約400両の戦車、装甲車、約1300人の隊員による観閲行進の他、旧式から最新式戦車による走行性能比較、訓練展示が行われ、轟音を発して走る戦車や大砲の音は迫力満点。

見学者の一人からは「自衛隊さんの訓練は迫力があり大変頼もしかったが、このようなことが実戦で行われないように、戦争にならない世の中にならなければいけない。」との感想があった。



2 子育てなら西野地区

6月12日（金）、昭和会館において、町内会、民生児童委員、青少年育成委員会、消防団、保護司、各小・中・高等学校関係者、児童会館、福まち等々の地域の主だった団体が一堂に会して情報交換を行う関係団体連絡協議会（水戸弘一会長）が開催された。

その際、西野児童会館 東 典寿館長から、4月8日（水）に放映されたUHBの「みんなのテレビ」で、西野地区は、市内のお母さん方から安心して子育てできる街として高い評価を得ていると紹介されていた旨、情報提供があった。

実際に、子育てのことを考えて市内・市外他地域から西野地区に引越してきた世帯もいるとのこと。

西野地区は住宅街でありながら自然が豊かであること、さらに、取材を受けた同館長が述べているように「地域全体が一体となって子ども達を見守る風土がある。」ということが高評価につながったものと思われる。

日頃から積極的にまちづくり活動に携わっている関係者の励みになるような情報であった。



3 稲わら寄贈

今春、札幌市では「まちづくりのレシピ」という冊子を刊行。

各地域で行われているまちづくり活動の事例が取り上げられているが、ここ西野地区からは「水車で地域交流会」が、子どもたちが地域の歴史を学んだり、年配の方々や高校生と交流できる貴重な場であると紹介されている。

実は、同交流会では、縄あみに使う背の高い稲わらが手に入りにくいという懸案を抱えていた。

同冊子で各地域の事例の取りまとめ、編集にあっていたのは(株)ノーザンクロスであるが、この悩みを聞いた社員の中に、実家が稲作農家をしている方がいて、先日、わざわざ昭和会館まで稲わらを届けていただいた。

事業の3年間分にあたる量であり、冊子の編集が取りもつ有難いご縁であった。



4 スイーツ販売します

7月8日（水）10～12時、西野地区福祉のまち推進センター事務所（西野6条3丁目）において、クッキー、マドレーヌ、パン、手作り石けんなどを販売する。

出店するのは、札幌この実会、コミュニティスペースじゃがいも、社会福祉法人HOPあつぶ。

いずれも障がいのある方々が一般就労に向けて活動している事業所や施設である。

コーヒー、お茶も用意されているので、気軽にお越しいただき、お菓子等を物色かたがた、事務所内で一休みいただきたい。

